



題字 井口 文章
再刊 第261号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2018

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：この春活躍した部活動に取材
3年生でもOCが始まる
二面：錦城卒業生、田中健一郎氏
帝国ホテル総料理長の仕事を語る

最後の夏へ大躍進

快勝続きの錦城部活動

春に行われた大会で多くの部活が好成績を残した。生徒総会でも表彰された空手道部などの運動部や将棋部に取材。少し遅くなってしまうが、大会の感想や次に向けての意気込みを聞いた。

空手道部 関東大会出場決定

5月3日(木)の関東予選組手女子団体で4位に輝き、6月8日(金)〜10日(日)の関東大会に出場することが決まった。豊田夏子さん(3E)、西田彩乃さん(3C)、早田裕香さん(3C)、白田伊吹さん(3E)の4人に話を聞いた。



形の練習をする空手道部。気合の入った掛け声が道場に響き渡っていた。

「今回で21回連続での関東大会への出場が決まり、先輩達の努力を受け継ぐことができると嬉しです。個人個人の力を合わせ団結できた結果だと思います」と笑顔で振り返った。今回の試合について「実は辛勝でしたが、後輩や保護者の方の応援を力に勝つことができました」と話し、一緒に練習してくれた男子や教えてくれた先生にも感謝していますと語った。

「このメンバーでの出場は最後の後、後悔してもいいから全力で戦え、という先輩に言われた言葉を胸に『錦城ヤバクね?』と言わせるような戦いをしたいです」と意気込んだ。

将棋部 全国大会予選優勝

5月3日(木)、4日(金)に開催された全国高等学校将棋選手権大会東京地区予選に出場。団体戦に出場した池崎可南子さん(3C)、稲井澤加さ

「今年度から新しくOCを教えることとなったMori先生(ノビー先生)は、34年間住みながらネイティブの英語に触れることを目的とする一方、3年時では根拠を示した上で自分の考えを述べ、その上で生きているのだ。本来ならOCは全学年に必要だとい

「今年度から新しくOCを教えることとなったMori先生(ノビー先生)は、34年間住みながらネイティブの英語に触れることを目的とする一方、3年時では根拠を示した上で自分の考えを述べ、その上で生きているのだ。本来ならOCは全学年に必要だとい

「使える英語」へ新たな試み

今年度から3年生にもOC

今年から3年生の文系コースがOCの授業を受けることになった。英語科主任の北川資人先生は「最近実用的英語やアウトプットの重要性、4技能の必要性が高まってきています。また1・2年の授業で身につけた力を活かしてOCは全学年に必要だとい

新たなOC担当の先生

今年度から新しくOCを教えることとなったMori先生(ノビー先生)は、34年間住みながらネイティブの英語に触れることを目的とする一方、3年時では根拠を示した上で自分の考えを述べ、その上で生きているのだ。本来ならOCは全学年に必要だとい



英会話の大切さを語る先生

「今年度から新しくOCを教えることとなったMori先生(ノビー先生)は、34年間住みながらネイティブの英語に触れることを目的とする一方、3年時では根拠を示した上で自分の考えを述べ、その上で生きているのだ。本来ならOCは全学年に必要だとい



念願の団体で優勝し笑顔を見せる3人

「今年度から新しくOCを教えることとなったMori先生(ノビー先生)は、34年間住みながらネイティブの英語に触れることを目的とする一方、3年時では根拠を示した上で自分の考えを述べ、その上で生きているのだ。本来ならOCは全学年に必要だとい

女子ハンドボール部 関東大会予選ベスト8

女子ハンドボール部は東京都高等学校ハンドボール春季大会兼関東大会予選でベスト8という好成績を残した。

「今年度から新しくOCを教えることとなったMori先生(ノビー先生)は、34年間住みながらネイティブの英語に触れることを目的とする一方、3年時では根拠を示した上で自分の考えを述べ、その上で生きているのだ。本来ならOCは全学年に必要だとい

安全な自転車利用を



5月8日(火)の朝、小平警察と陸上部による自転車マナーの啓発活動が行われた。陸上部員は旗を振ったり、チラシの入ったティッシュを配ったりして安全な自転車利用を促した。

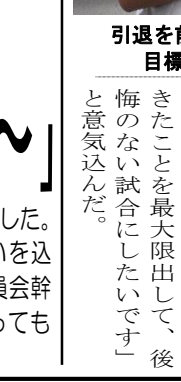
合唱祭テーマ決定！
「躍～誰もが楽しめる音楽を～」
5月10日(木)に合唱祭実行委員会が開かれ、テーマが決定した。「去年に比べてみんなが楽しめる合唱祭にしたいという思いを含め、それに合った漢字『躍』をテーマにしました」と実行委員会幹部。今後は「合唱祭を通して音楽の素晴らしさや楽しさを知ってもらいたいです」と意気込んだ。

女子バスケットボール部 東京予選3回戦進出

女子バスケットボール部は5月20日(日)に行われた高校総合体育大会東京都予選2回戦で宝仙学園高校に圧勝し、3回戦進出を決めた。

部長の鈴木彩奈さん(3E)は2回戦を振り返り「試合は2回戦を振り返り、相手には負けないようにアツプから声を出しました」と語った。ポイントゲッターである副キャプテンが怪我で欠場という状況で挑んだ今回の試合。一人ひとりが点を取らなければいけないという以上、試合後半に点差をつけたことが勝利に繋がったと鈴木さん。

引退を前に今後の目標を語る



引退を前に今後の目標を語る

制汗スプレー缶、困ってます



制汗スプレー缶、困ってます
使い終わったら正しい場所へ！
新入生が加入し本格的に部活動が始まった。特に運動部は制汗スプレー缶を使っている人も多いだろう。ゴミ捨て場にはスプレー缶専用の場所があるが、一般のゴミ箱にスプレー缶を捨てる人が後を絶たない。5月7日(月)の予算会議で体育学芸委員長の喜頭蓮さん(3L)から正しい場所に捨てるよう呼びかけがあった。「一般のゴミとの仕分けをする喜頭さんの仕事は大変です。安全のためにも部活ごと徹底してほしいです」と話す。自分の捨て方は正しかったか、この機会にもう一度振り返ってみよう。

「虹の麓には幸せがある」。一体誰の言葉なのだろうか。去年の雨上がりの放課後。編集室の窓から空を眺め、虹を見つめていた。虹というものは、昔から人間を魅了してきた。アイルランドの伝承に登場する、虹の麓で貯めた金貨を金の壺に入れて隠しているという妖精レラコーン。ドイツでは、虹の麓に、手に入れることができるという一生幸運に恵まれるという金のカップがある。昔の人も、虹という鮮やかな非現実的で夢のような道に何か妖しい魅力を感じていたのだろうか。けれども、どの物語も最後は身近なところに幸せがあると言っていた。54回生編集委員の、記事の最後に記す署名のテーマは「色」だった。十人十色とはよく言ったもので、様々な色が集まった。最初はあまりよく考えずに決めた署名も、気が付けば今ではこの色が自分だと思えるようになった。新聞を作っていく上で、上手いかな、ときに支え合ったり、お互いの意見が衝突して口論になることもあった。それでも、これまでの高校生活を振り返って一番つらくて一番楽しかった場所だと言える。幼い頃、虹の麓を本気で探したことがある。いくら走ったって麓にはたどり着けやしない。けれども、そんな思い出を忘れてはならない。夏の日の、ブルーのシャワーを浴びているとき、足元に虹ができていたのを見た。虹の麓というのかもしれない。自分が考えている以上に近くにあるのかもしれない。中間考査も終わって本格的に新学年としての高校生活が始まる。それぞれが色んな道を歩んでいく。歩んでいるうちに、その足を止めたくなるようなことがあるかもしれない。そんなときは、よく周りを見て欲しい。きっと、すぐそばに幸せはあるはずだ。(緋)

むらさき草

「虹の麓には幸せがある」。一体誰の言葉なのだろうか。去年の雨上がりの放課後。編集室の窓から空を眺め、虹を見つめていた。虹というものは、昔から人間を魅了してきた。アイルランドの伝承に登場する、虹の麓で貯めた金貨を金の壺に入れて隠しているという妖精レラコーン。ドイツでは、虹の麓に、手に入れることができるという一生幸運に恵まれるという金のカップがある。昔の人も、虹という鮮やかな非現実的で夢のような道に何か妖しい魅力を感じていたのだろうか。けれども、どの物語も最後は身近なところに幸せがあると言っていた。54回生編集委員の、記事の最後に記す署名のテーマは「色」だった。十人十色とはよく言ったもので、様々な色が集まった。最初はあまりよく考えずに決めた署名も、気が付けば今ではこの色が自分だと思えるようになった。新聞を作っていく上で、上手いかな、ときに支え合ったり、お互いの意見が衝突して口論になることもあった。それでも、これまでの高校生活を振り返って一番つらくて一番楽しかった場所だと言える。幼い頃、虹の麓を本気で探したことがある。いくら走ったって麓にはたどり着けやしない。けれども、そんな思い出を忘れてはならない。夏の日の、ブルーのシャワーを浴びているとき、足元に虹ができていたのを見た。虹の麓というのかもしれない。自分が考えている以上に近くにあるのかもしれない。中間考査も終わって本格的に新学年としての高校生活が始まる。それぞれが色んな道を歩んでいく。歩んでいるうちに、その足を止めたくなるようなことがあるかもしれない。そんなときは、よく周りを見て欲しい。きっと、すぐそばに幸せはあるはずだ。(緋)

3年生大学説明会

5月9日(水)、3年生を対学校などで、実地の授業が対象とした大学説明会が行われた。さらに、6月1、2日、38校の大学から来た講師を採用して1、2ヶ月の方から各校の特徴や入試情報を一学期として細切りにする報についての説明を受けた。

文理解らず幅広く学ぶ

国際基督教大学(ICU)では、4・5人の少人数で授業を行うため生徒同士や先生との距離が近い。また、異なる国籍をもつ学生と様々な言語を共有することで、言語の背景にある文化も学べる。

将来のために真剣に話を聞く3年生

2年次に専攻を決めるまで、全生徒が文理問わず幅広い分野を学ぶ。そのため多様な学びに触れながら、じっくりと専攻を決めることができる。学びに幅が広がるICU。興味を持った人はチェックしてみよう。(橙・藤)

~帝国ホテル総料理長 錦城4回生 田中健一郎さん~ どこまでも料理を追求し続ける



田中さんの軌跡

1969	錦城高等学校卒業
	(株式会社)帝国ホテル入社
1997	調理部長 就任
	一年間のフランス留学
1999	東京料理長 兼 調理部長
2000	株式会社インペリアル・キッチン取締役(現任)
	(現:株式会社帝国ホテルキッチン)
2002	取締役総料理長 兼 調理部長
	財団法人 日本食生活文化財団
	食生活文化賞 銀賞受賞
	第13代料理長就任
	約10年間にわたりNHK「きょうの料理」に出演
2004	料理ボランティアの会入会(現在も代表理事)
2005	フランス共和国 農事厚労省 シュヴァリエ受賞
2009	12年間勤めた調理長を離れ総料理長職に専念
2012	財団法人 日本食生活文化財団
	食生活文化賞 金賞受賞
2015	厚生労働省認定
	「現代の名工(卓越した技能者)」受賞
2017	文化庁長官表彰受賞



「帝国ホテルの顔」としての威厳を感じさせる、田中さんのたたずまい

日本一のホテルを率いる卒業生を取材

4月27日(金)帝国ホテルで現在総料理長を務めている田中健一郎さんにお話を伺った。田中さんは錦城高校の4回生で、2017年には文化庁長官表彰を受賞している。総料理長としての仕事や錦城高校在学時の様子まで、プロの現場で働く田中さんの姿に迫った。

料理人を目指すきっかけ

「料理は人を幸せにできる。それを感得した中学のときから、将来の夢は料理人になることだった」という田中さん。多忙な両親の代わりに時々晩御飯を作っていた。自分の作った料理を「健ちゃんのご飯は美味しいね」と喜んで食べてくれる母の言葉をきっかけに、料理をやることになった。それと同時に料理人という仕事に憧れを持つようになった。

夢の帝国ホテルへ

田中さんが入社したのは、帝国ホテル本館設立1年前の1969年。当時は猫の手も借りたいほど忙しく、大量採用が行われていた。「だから猫の手で入ったんだよ」と笑う。任される仕事すべてにスピードを求められ、ライバル仲間との競争時代を過ごしたという。そんな環境だったからこそ「人より自分は努力していた」という田中さん。

フランス料理と出会い

田中さんは学生時代、料理番組を見るのが好きだったという。当時数少ない料理番組の一つ「きょうの料理」で「よくて優しいような体型のシェフ」がフランス料理を作る姿を見たことが、フランス料理に興味を持ち始めるきっかけだったと田中さんは語る。そして、それが帝国ホテル第11代料理長で生涯の師「村上ムツシユ」との出会いでもあったと振り返った。

フランス料理の魅力

メニューを見ただけではどんな料理が運ばれてくるのか想像がつかない、意外性と驚

熱意で苦難を乗り越える

帝国ホテルで働き始めて49年目。今まで何十回もの挫折を経験してきたという。「先輩に怒られたり、できない自分に情けなくなったりした。ただ挫折を乗り越えて人間だけじゃなく、動物も成長する」と挫折をバネに成長していた田中さん。仕事で行き詰まった時の乗り越え方について



真剣な眼差しで料理に打ち込む(帝国ホテルHPより)

「仕事が好きで好きでたまらないという気持ちが大仕事と力強い眼差しで答える。何事にも熱意をもって行動することが大切だということ。この言葉で示してくれた。

総料理長という仕事

田中さんは総料理長に2002年から就任した。総料理長の役割は3つ。全ての食に対する安全に責任を持つこと、常においしい料理を作る

文化庁長官表彰とは?

文化活動に優れた成果を示し、我が国の文化の振興に貢献された方々、または日本文化の海外発信や国際文化交流に貢献された方々に対し、その功績をたたえ文化庁長官が表彰するものである。(文化庁HPより引用)

帝国ホテルについて

帝国ホテルは1890年、海外からの賓客を迎える「日本の来賓館」として東京・日比谷の地に開業。以来国際交流やビジネスの場として、常に時代を先がけてきた。1945年にはマリリン・モンローが新婚旅行で宿泊。その他にもチャップリンやヘレンケラーなど、歴史に名を連ねる著名人が滞在している。日本を代表する高級ホテルとして時代に沿ったニーズにこたえ続けてきた老舗ホテルだ。

帝国ホテル内にはフランス料理から懐石料理まで幅広い高級レストランがある。どのレストランも日本を代表する名高いもので、田中さんはこのような複数の料理部門全体を総料理長。「食」の面において帝国ホテルだけでなく、日本の顔として活躍している。(帝国ホテルHPより一部抜粋)



都市の中に悠々と立ち構える(帝国ホテルHPより)

料理人としての礎となった錦城生活

高校生活で育んだ料理魂

本立ち読みをしたり、お小遣いを貯めてフランス料理店に行ったりと自分でやりくりをし、夢のため努力を続けてきた。夢のため努力を続けてきた。夢のため努力を続けてきた。夢のため努力を続けてきた。



在学時の田中さん(前列中央)

「夢」と「誇り」を忘れない。総料理長になるということは、帝国ホテルの看板を背負うこと。そのための行動の真意は「料理は『人』なり」という考えからだ。作り手に疲れや悩みがあれば、おいしい料理は作れない。そのため、田中さんは部下と直接接することでその内面を読み取り、最高の状態でいられるように心がけているという。また試食は客と同じ目線になるためにレストランの客席で行う。

大会報告

▽陸上部 5月12(土)、13(日)、19(土)、20(日)東京京都総合体育大会 5000Mウォーク 出場 大橋 巧(2L) 7種競技出場 喜頭 蓮(3L) 走り幅跳び出場 羽生 里桜(3G)

大会報告について

大会報告は大会が終わる直後「大会名」「大会結果」「大会出場者名」「大会開催期間」などを記入し早めに職員室前にある大会報告ボックスに入れてください。

生徒会動静

5月15日(火) HR委員会 中央委員会 代議委員会 16日(水) 生徒総会

守るべき流儀と作り出す流儀について田中さん自ら著した本



「100-110」という信念を貫いている。これは完璧を求められる名門ホテルにとって、たった一つの妥協がすべてを台無しにする恐れがあるからだ。そのため味や料理のバランスを考慮し、足りない点は極めて具体的に指摘していく。これらの行動によって日本一のホテルと呼ばれる「帝国ホテルの料理」が出来上がっているのだろう。



田中さんと編集委員で記念撮影

最後に錦城生にメッセージをくれた。「人生は一瞬一瞬の積み重ね。だから今一瞬を大切に生きていかなければ、日々の生活を一生懸命生きていくってほしい。」